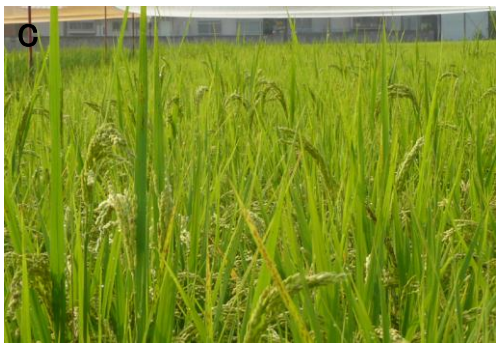
120520
技術の完成状況
★★★★☆

飼料用米生産における落下種子対策技術体系

目的と特徴

- 飼料用米好適品種を収穫した圃場で翌年に食用水稲品種を作付けると、圃場に落下して生き残った飼料用米品種の種子が発芽・生育して漏生イネとなり混入することがあります。
- 温暖地と寒冷地のそれぞれに適した飼料用米生産における落下種子対策技術を開発しました。
- 温暖地では、飼料用米好適品種収穫後の秋耕、食用品種の遅植え、食用品種移植栽培におけるプレチラクロールを含む除草剤散布が有効です。
- 寒冷地では、飼料用米好適品種収穫後に秋耕せず、食用品種移植栽培におけるプレチラクロールを含む除草剤散布が有効です。

漏生イネの発生



A:移植栽培:移植後約半月
条間に多数の漏生イネが発生。
B:乾田直播栽培:播種後約1ヶ月半
条間に大量の漏生イネが発生。
C:湛水直播栽培:出穂期
稈長の高い漏生イネの穂が多数確認できる。

対策

種子が越冬しにくい（休眠の浅い）飼料用米品種を選択

圃場に籾を極力残さない栽培（倒伏させない、適期収穫等）

温暖地
秋耕，食用品種遅植え

寒冷地
秋耕しない

プレチラクロールを含む除草剤を代かき後あるいは食用品種移植直後に散布

成果

- 種子休眠の浅い品種ほど越冬しにくいです。
- 秋耕時期の目安は年内の有効積算気温（下限10℃）が100℃・日を得られる早い時期です。
- 遅植えの目安は春季の有効積算気温（下限10℃）が480℃・日を得られる遅い時期です。
- プレチラクロールは有効ですが、漏生イネの生育が進んでからの散布では効果は小さくなります。

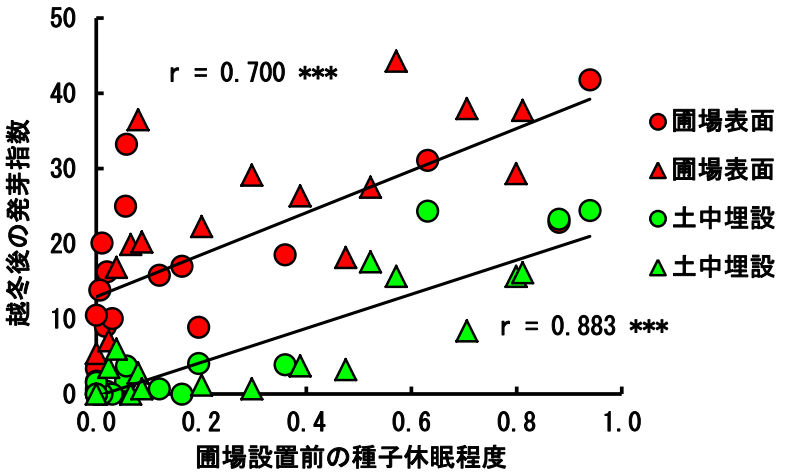
連絡先：農研機構 東北農業研究センター水田作研究領域　　tel　0187−66−2776

品種特性

休眠程度と越冬後の発芽指数との関係（温暖地）

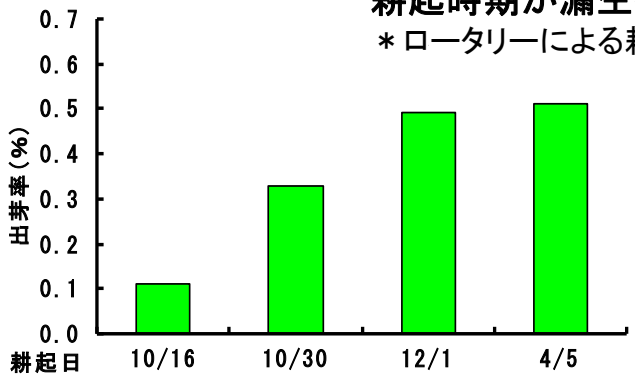
＊休眠程度：値が大きいほど休眠が深い.
＊発芽指数：値が大きいほど発芽能力が高い

休眠の浅い品種を栽培することで漏生イネを減らすことができる



耕起法

耕起時期が漏生イネの出芽に及ぼす影響（温暖地）
＊ロータリーによる耕起（深度15cm）

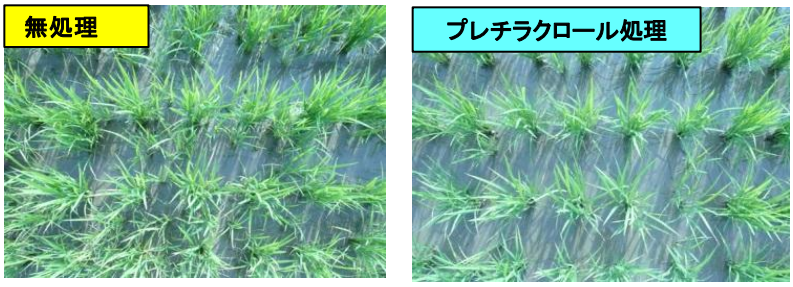


温暖地では秋耕により漏生イネを減らすことができる
（寒冷地では秋耕しない方が漏生イネを減らせる）

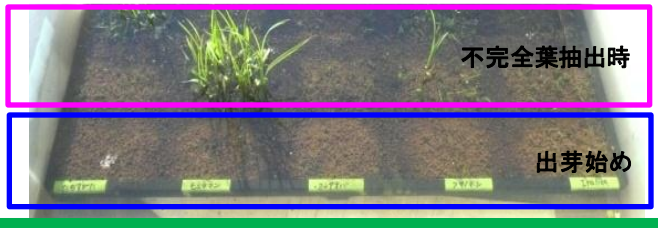
除草剤

除草成分プレチラクロール処理と漏生イネの発生

＊除草成分プレチラクロールを含む除草剤の利用
＊漏生イネの出芽始めまでの散布が有効



プレチラクロール処理時期と漏生イネの発生



対象作物、普及対象
・水稲、全国
対象農家
・飼料用米好適品種を作付けた翌年に食用水稲品種の作付けを予定している経営
必要な道具
・耕耘機等の一般的な農作業用機械
関連HP
http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/027981.html
その他
・同一品種でも種子休眠性や越冬能力には年次間差があり、その要因については解析中です。

委託プロジェクト研究（国産飼料プロ）
平成25年3月　農林水産省農林水産技術会議事務局研究統括官室